

5 森林などの「みどり」の保全について

(1) 「みどり」に対して期待する効果

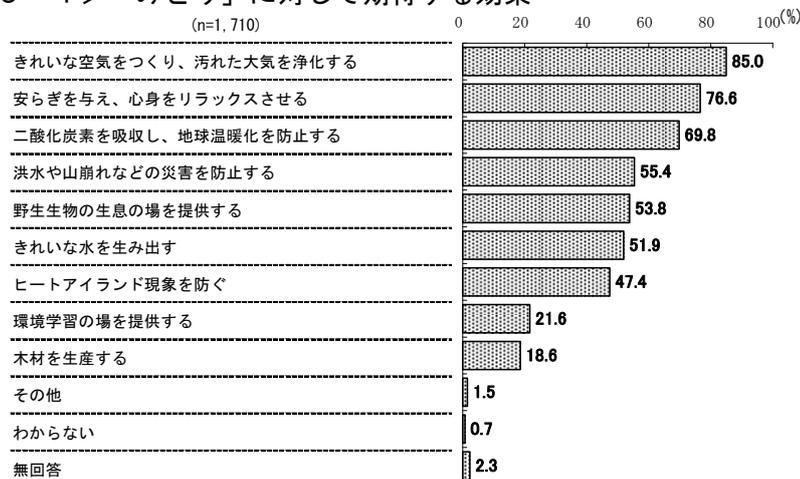
◇「きれいな空気をつくり、汚れた大気を浄化する」が最も高く、8割台半ば。

森林や里山、公園や街路樹などの「みどり」は、水を貯え、山崩れなどの災害を防いだり、生活環境を守り、自然とのふれあいや安らぎの場を提供し、また、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収するなど様々な公益的機能を有しています。

近年、手入れ不足等による森林の荒廃や都市近郊における緑地の減少が進んでおり、「みどり」の持つ公益的機能の低下による県民生活への影響が懸念されています。

問18 あなたは、森林や里山、公園や街路樹などの「みどり」に対し主にどのような効果を期待していますか。(〇はいくつでも)

<図表5-1> 「みどり」に対して期待する効果



「みどり」に対して期待する効果を聞いたところ、「きれいな空気をつくり、汚れた大気を浄化する」(85.0%)が最も高く、8割台半ばである。ついで、「安らぎを与え、心身をリラックスさせる」(76.6%)が7割台半ばで、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する」(69.8%)が約7割である。(図表5-1)

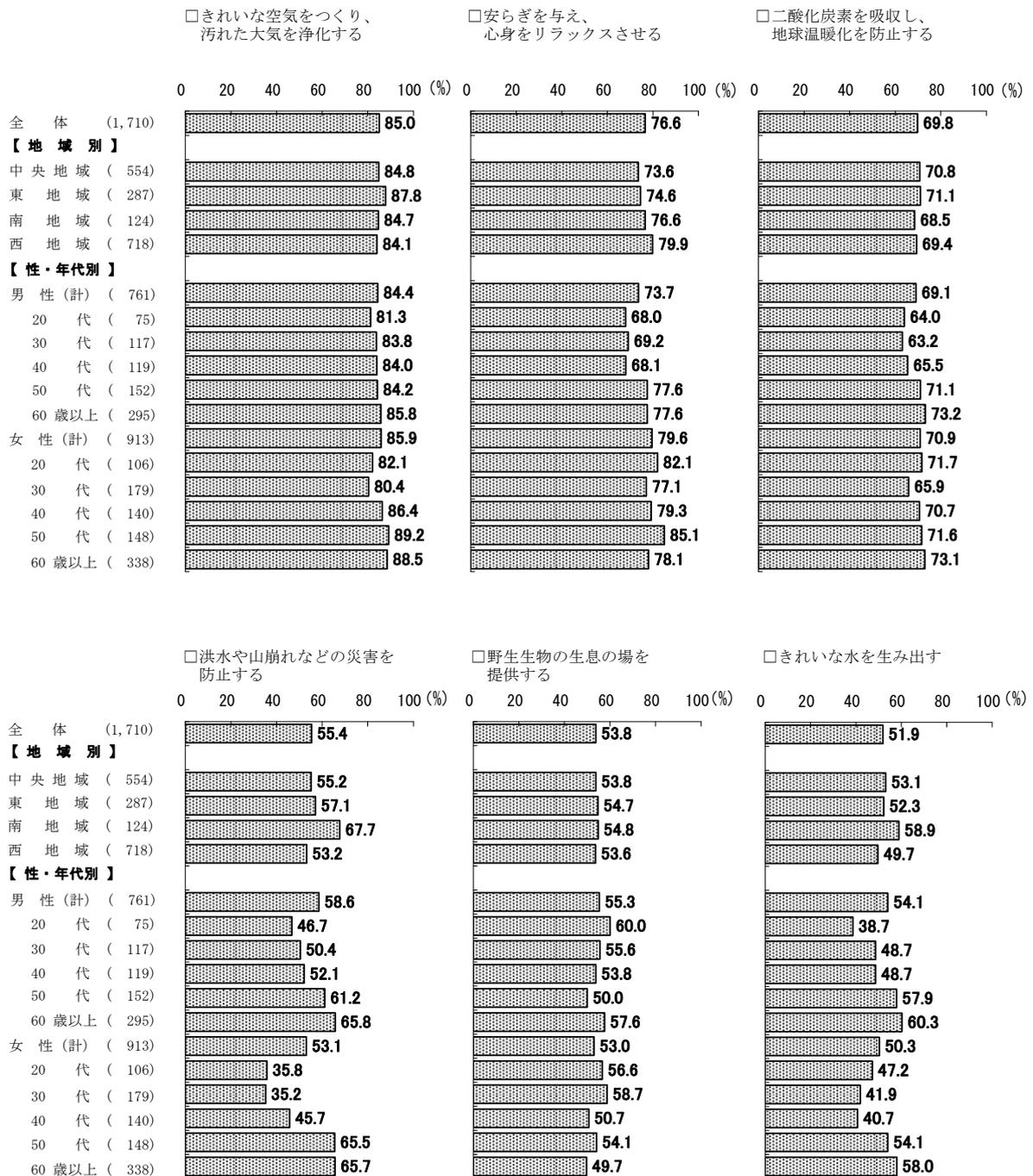
【地域別】

「きれいな空気をつくり、汚れた大気を浄化する」、「安らぎを与え、心身をリラックスさせる」、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する」は、地域別に大きな差はみられない。「洪水や山崩れなど災害を防止する」は、「南地域」(67.7%)が約7割と他の地域に比べて高くなっている。(図表5-2)

【性・年代別】

「きれいな空気をつくり、汚れた大気を浄化する」は、女性50代(89.2%)、60歳以上(88.5%)で約9割になっており、他の年代に比べて高くなっている。「安らぎを与え、心身をリラックスさせる」は、女性の50代(85.1%)で8割台半ばになっており、他の年代に比べて高くなっている。「きれいな水を生み出す」は、男性の60歳以上(60.3%)で6割となっている。(図表5-2)

<図表5-2> 「みどり」に対して期待する効果／地域別、性・年代別（上位6項目）

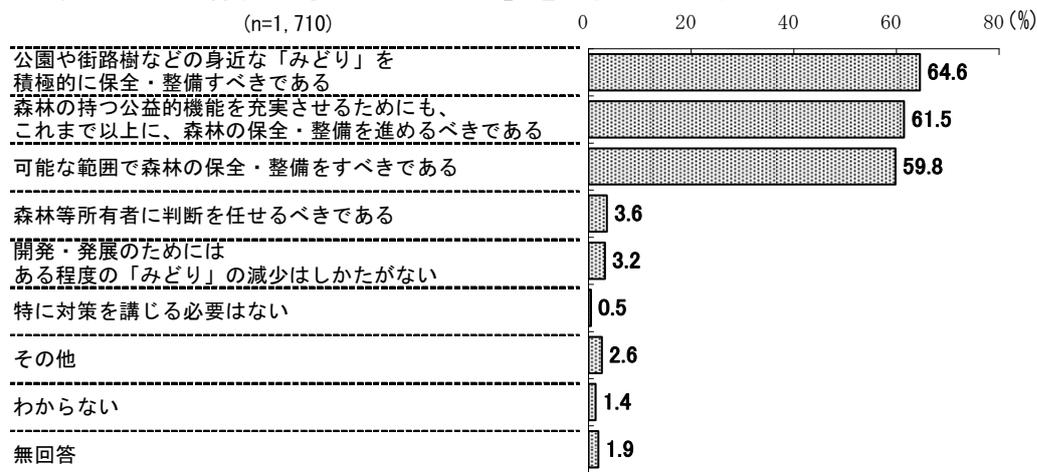


(2) 森林や身近な「みどり」を今後どのようにしていくべきか

◇「公園や街路樹などの身近な「みどり」を積極的に保全・整備すべきである」が最も高く6割台半ば。

問19 木材価格の下落や林業就業者の減少と高齢化などにより、森林や里山の保全・管理が進まず、また、都市化の進展などにより身近な「みどり」が年々減少しています。
あなたは、森林や身近な「みどり」を今後どのようにしていくべきと思いますか。
(〇はいくつでも)

<図表5-3>森林や身近な「みどり」を今後どのようにしていくべきか



森林や身近な「みどり」を今後どのようにすべきかを聞いたところ、「公園や街路樹などの身近な「みどり」を積極的に保全・整備すべきである」(64.6%)が最も高く、6割台半ばである。ついで「森林の持つ公益的機能を充実させるためにも、これまで以上に、森林の保全・整備を進めるべきである」(61.5%)が6割を越え、「可能な範囲で森林の保全・整備をすべきである」(59.8%)が約6割と続く。(図表5-3)

【地域別】

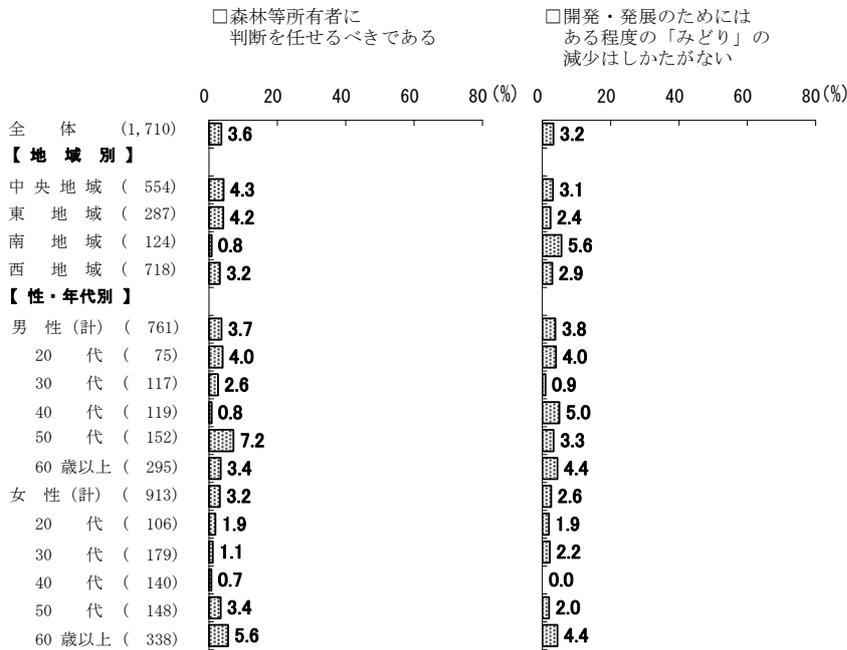
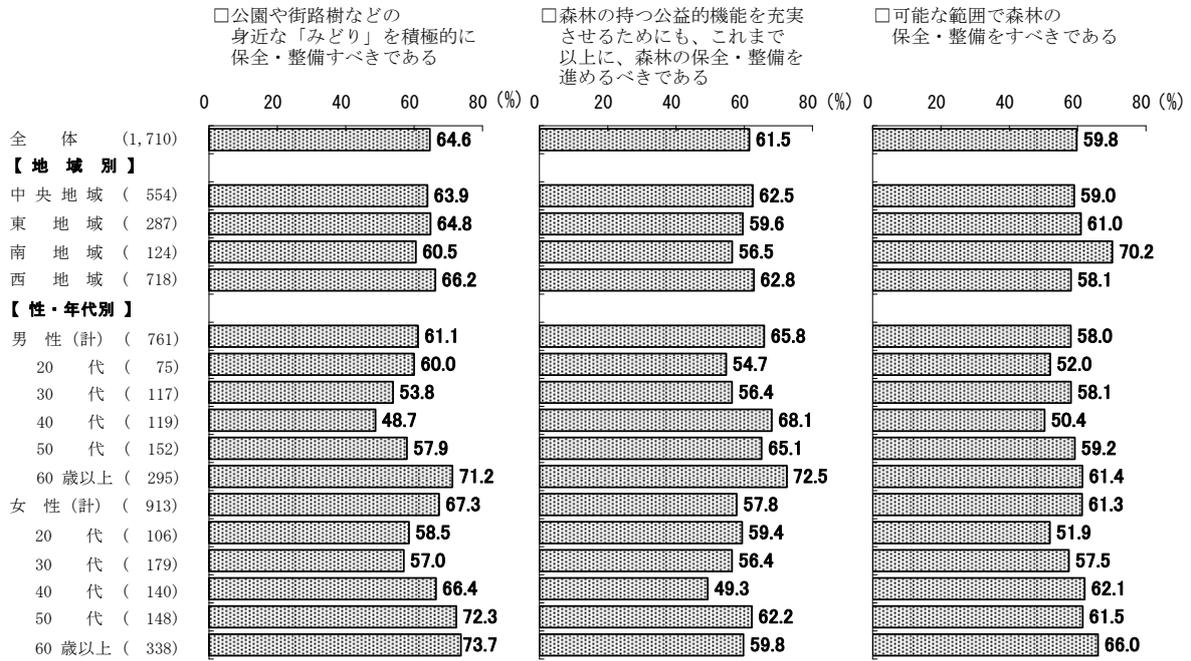
「公園や街路樹などの身近な「みどり」を積極的に保全・整備すべきである」は、“西地域”(66.2%)で他の地域比べて高くなっている。「森林の持つ公益的機能を充実させるためにも、これまで以上に、森林の保全・整備を進めるべきである」は、“中央地域”(62.5%)、“西地域”(62.8%)で6割を超えている。「可能な範囲での森林の保全・整備をすべきである」は、“南地域”(70.2%)が7割となり、他の地域に比べて高くなっている。(図表5-4)

【性・年代別】

「公園や街路樹などの身近な「みどり」を積極的に保全・整備すべきである」は、女性の60歳以上(73.7%)が7割台半ばとなり最も高い。「森林の公益的機能を充実させるためにも、これまで以上に、森林の保全・整備を進めるべきである」は、男性の60歳以上(72.5%)で7割台半ばとなり、他の年代に比べて高くなっている。(図表5-4)

＜図表5-4＞森林や身近な「みどり」を今後どのようにしていくべきか／

地域別、性・年代別（上位5項目）

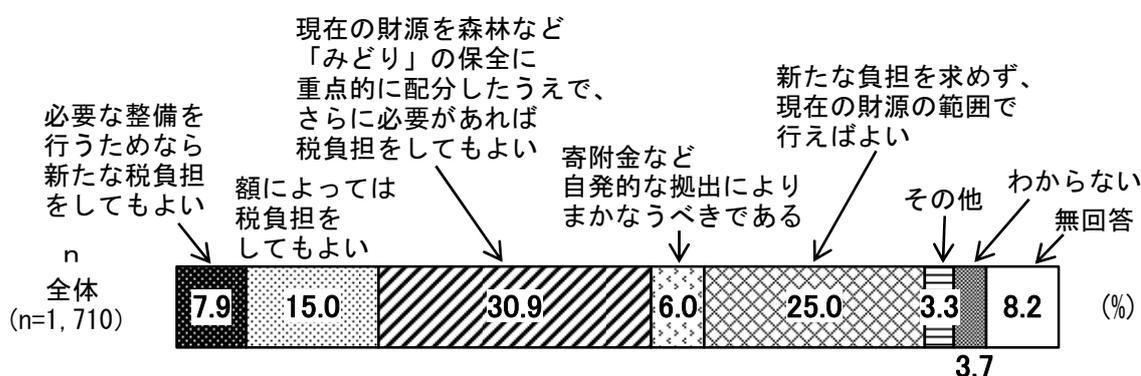


(3) 森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて

◇「現在の財源を森林など「みどり」の保全に重点的に配分したうえで、さらに必要があれば税負担をしてもよい」が3割。

問20 森林など「みどり」の保全を積極的に行っていくためには多額の費用が必要となります。他県では、その財源を確保するため、県民に新たな負担を求める、いわゆる「森林環境税」を独自に導入して整備を行っているところもあります。
あなたは、森林など「みどり」の保全のために、県民に新たな税負担を求めることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

<図表5-5>森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて



森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて聞いたところ、「現在の財源を森林など「みどり」の保全に重点的に配分したうえで、さらに必要があれば税負担をしてもよい」(30.9%)が最も高く3割であった。ついで、「新たな負担を求めず、現在の財源で行えばよい」(25.0%)が2割台半ばである。(図表5-5)

【地域別】

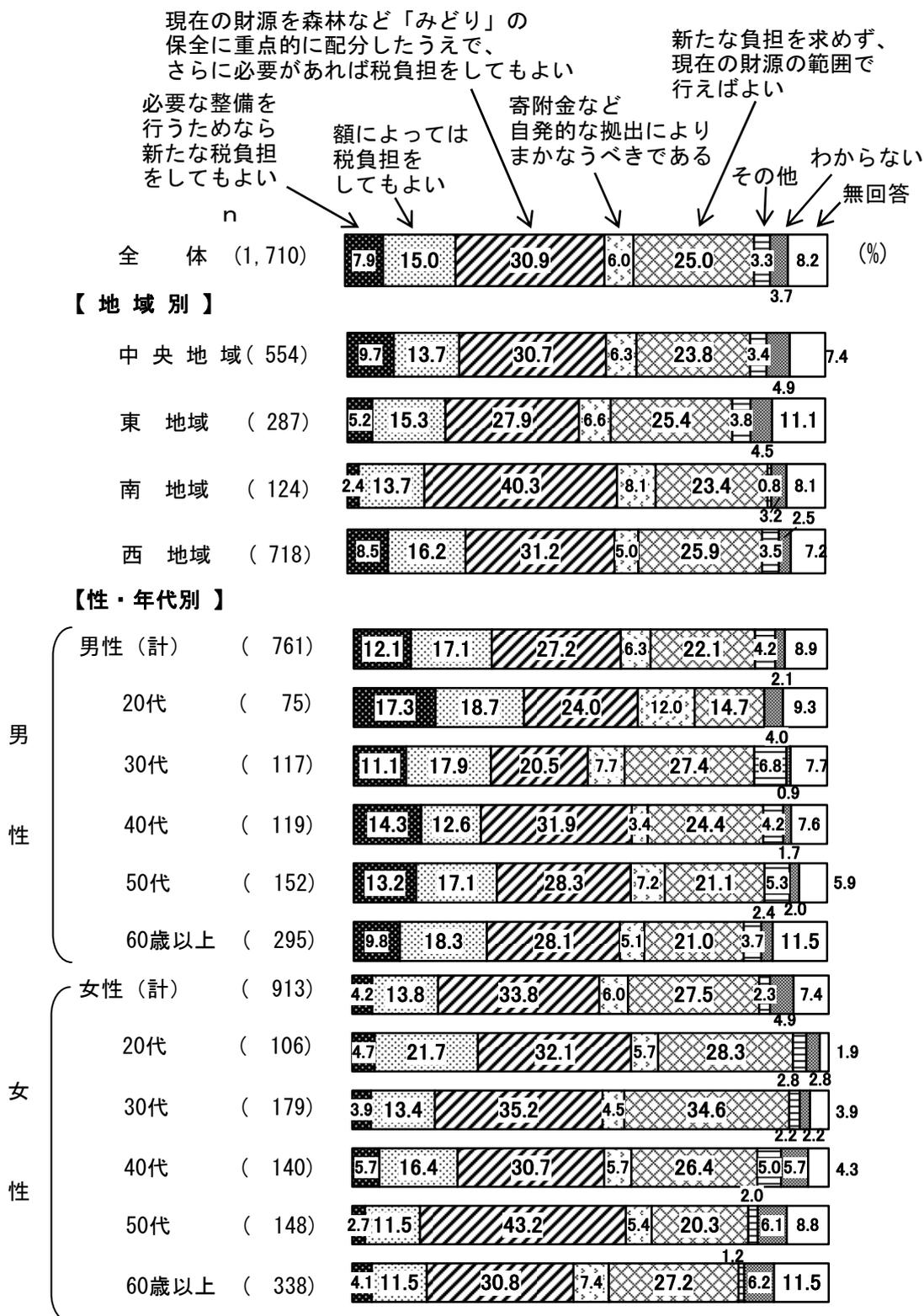
「現在の財源を森林など「みどり」の保全に重点的に配分したうえで、さらに必要があれば税負担をしてもよい」は、“南地域”(40.3%)が4割で他の地域に比べて高くなっている。「新たな負担を求めず、現在の財源の範囲で行えばよい」は、地域別で大きな差はみられない。(図表5-6)

【性・年代別】

「現在の財源を森林など「みどり」の保全に重点的に配分したうえで、さらに必要があれば税負担をしてもよい」は、男性の40代(31.9%)で3割を超えており、他の年代と比べ高い。また、女性の50代(43.2%)で4割台半ばとなっており、最も高い。「新たな負担を求めず、現在の財源の範囲内で行えばよい」は、男性の30代(27.4%)で約3割、女性の30代(34.6%)で3割台半ばとなっており最も高い。(図表5-6)

<図表5-6> 森林など「みどり」の保全のために新たな税負担を求めることについて

地域別、性・年代別



問 「森林など「みどり」の保全について」やここまでの質問（問18～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、234人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載した。

■「森林などの「みどり」の保全について」の自由回答（抜粋）

- みどりの保全は重要課題ではあるが、すぐ税金負担を求めず、無駄をなくした上で行うべきだと思う。（男性・30代・西地域）
- 森林・公園などのみどりは私達の生活の中でも地球環境の面で見ても必要不可欠な部分だと思うので、県民として地球に住んでいる一員として協力できる事はしたいと思っている。（女性・20代・中央地域）
- 森林の保全を行うことについて多額の費用とありますが、無駄を省けば財源は確保できるのではないのでしょうか。「森林保全ボランティア」や青少年相談員など、各団体に自然保護の観点からもつながりを持たせ、活動を推進してはいかがでしょうか。（男性・40代・中央地域）
- 屋上の緑化、庭のある家での樹木を植えるなど、意識を高めるためのPR、講演、補助制度の充実（屋上緑化）など積極的に行うこと。（女性・60歳以上・中央地域）
- 森林所有者が高齢化してきており、管理が行き届かなく荒れた場所が多くなっています。森林組合等の組織もあるようですが、所有面積の少ない人は放置されたままが多くなっております。今後の問題点と思われます。（女性・60歳以上・南地域）
- 多少の森林環境税の負担は仕方ないと思うが、それが本当に「みどり」のために使われるのか。県民に納得させるような結果を提示してほしい。（女性・60歳以上・西地域）
- 年金生活者にとって新たな税負担は、ますます生活を苦しめる事になる。（女性・60歳以上・中央地域）
- 住民が、その緑地のために恩恵を受けるのであれば、その保全を維持していくのに必要な「税負担」もやむを得ないのでないか。（女性・60歳以上・西地域）
- 一度壊した森や林は復元ができません。人間だけがこの地球で生きているのではないのです。水や木等の自然をもっと大切に開発を考えてほしい。（男性・50代・東地域）
- 美しいみどりや環境のイメージを持ってない人も多いのでは？森林の美しさ、気持ちよさ、楽しみ方など、「みどり」を愛せる人々を増やしたい。そしてほんの一部分をいただくという思いで、開発、発展とのバランスを考える。安易に利便性を追求しない世相を望む。（女性・50代・中央地域）